

# 特別支援教育におけるキャリア教育の視点を取り入れた 自立活動の一考察

－知的障害及び肢体不自由・病弱に焦点を当てて－

斎 藤 遼太郎

## 1. 問題と目的

特別支援教育における教育課程の一つに自立活動がある。自立活動は特別支援学校学習指導要領に規定される特別支援学校の教育課程であるが、特別支援学級や通級による指導においても特別支援学校学習指導要領に示される自立活動の内容を参考にしつつ取り入れられることが求められている科目でもある（表1）。2022年度に策定された特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムの作成の議論においても、特別支援学校の教員に求める資質能力として、知的障害者である子供に対する教育を行う特別支援学校の各教科等や重複障害者等に関する教育課程の取扱い、発達障害と共に自立活動が取り上げられており、コアカリキュラムの中でも中心的な取扱いがなされている（文部科学省、2022）。例えば、「心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法―指導法― 知的障害者に関する教育の領域―」では、到達目標の4）に「知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案を作成することができる」とともに、授業改善の視点を身に付けている。」との記述がある。自立活動はその科目の性質上、自立活動という領域単体で完結するのではなく、各教科等とも関連しつつ授業の中に取り入れていくことが求められている。

2017年に改訂された特別支援学校の学習指導要領の変更点の一つにキャリア教育に関する内容がある。2017年改訂の特別支援学校学習指導要領では、自立と社会参加に向けた教育の充実の一つとして、「幼稚部、小学部、中学部段階からのキャリア教育の充実を図ることを規定」したことが挙げられている。従来から知的障害を対象とした教育課程の一つである各教科等を合わせた指導に「作業学習」があり、特別支援教育とキャリア教育の関係は強かったが、今回の改訂により、特別支援学校におけるキャリア教育の取り組みがより重要視されるようになってきたと言える。

以上のように自立活動とキャリア教育はどちらも特別支援学校や特別支援教育において、重要視されている教育課程である。「キャリア」は「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義されていることから、自身のことを知ることもキャリア教育には含まれると考えられる。つまり、キャリア教育の視点を取り入れつつ自立活動を行うこともまた特別支

援教育においては必要になってくると考えられる。

そこで本稿では、旧養護学校の対象障害種である知的障害と肢体不自由、病弱の三障害種を対象に、キャリア教育と自立活動の現状を概観し、キャリア教育の視点を取り入れた自立活動の方法について一考察を行うことを目的とする。

表1 特別支援学級および通級による指導での自立活動の扱い（文部科学省，2017a）

特別支援学級：障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。  
通級による指導：特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。

## 2. 特別支援教育におけるキャリア教育

1999年に文部科学省中央教育審議会において「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」が発表され、学校教育におけるキャリア教育の重要性が提唱された。本答申では「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」と述べられており、キャリア教育は特定の学校段階や特定の活動としてだけでなく学校教育全体を通して実施されるべきものであることが考えられる。これ以降キャリア教育に関連した様々な施策が進められており、文部科学省が2011年に発表した「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」では、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されている。つまり、一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることがキャリア教育の目的であると考えられる。

従来のキャリア教育においては、「人間関係形成能力（自他の理解能力、コミュニケーション能力）」「情報活用能力（情報収集・探索能力、職業理解能力）」「将来設計能力（役割把握・認識能力、計画実行能力）」「意思決定能力（選択能力、課題解決能力）」という4領域8能力が考えられていたが、文部科学省（2011）は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」において、キャリア教育の考え方を再構成し、「基礎的・汎用的能力」とした。これは「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力で構成されており、従来の4領域8能力は全て網羅し、かつ自己管理などを新たに加えた概念である（文部科学省，2011）。この新たな4つの能力は、包括的な能力概念であり、それぞれが相互に関連・依存した関係にある。

このような中において、特別支援教育におけるキャリア教育はどのように進んできたのか。特別支援教育において、キャリア教育が注目されたのは2009年告示の特別支援学校高等部学習指導要領において「キャリア教育」の文言が明記されてからと考えられている（篠原・半澤，2019）。これ以降特別支援教育においても早期からの組織的な取り組みによるキャリア教育の推進が求められるようになり、学校現場におけるキャリア教育への関心が

高まってきていると指摘されている（木村・菊地，2011）。菊池（2013）が行った特別支援学校におけるキャリア教育についての意識の現状と課題の結果においても、キャリア教育を推進する必要性を感じている学校が大半である一方で、「定義の共通理解」「具体的実践イメージ」については不十分であることが明らかにされている。

そのような中、国立特別支援教育総合研究所は、『特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック』を2011年に発行し、知的障害教育における「キャリアプランニング・マトリックス」を提起した。知的障害教育におけるキャリア教育の系統性などが示されており、その充実が知的障害教育の重要な柱の1つになっている。これ以降キャリアプランニング・マトリックスを用いた教育実践が多く行われている（北村（2015）・小田島（2013）など）。一方で、このキャリアプランニング・マトリックスは知的障害を対象としていることから、より障害の重い子どもたちに適応したカテゴリーを考えることの重要性も指摘されている（越智ら，2018）。

### 3. 自立活動の内容と歴史的変遷

自立活動は特別支援学校学習指導要領において、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」ことを目標として、特別支援学校の教育課程に位置づけられている。その内容として「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の6区分27項目が設定されている（表2）。自立活動の前身は1971年の特殊教育諸学校学習指導要領において規定された「養護・訓練」であり、その後1999年の学習指導要領改訂において、幼児児童生徒個々の自立を目指した主体的な取組を促す教育活動であると明確にするため、「自立活動」に改められた。2009年の学習指導要領改訂では、新たな区分として「人間関係の形成」が加わり、自立活動の内容は6区分26項目となった。さらに、2017年の学習指導要領改訂において、「健康の保持」に「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」が追加され、現在の6区分27項目となった。

自立活動の進め方について、学習指導要領では次のように規定されている。まず、教員は個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等の的確な把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導目標及び指導内容を設定し、個別の指導計画を作成する。次に、表2に示す内容の中からそれぞれに必要とする項目を選定し、それらを相互に関連付け、具体的に指導内容を設定するものとする。

表2 自立活動の内容

#### 1 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。
- (5) 健康状態の維持・改善に関すること。

## 2 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること。
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。

## 3 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

## 4 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること。
- (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

## 5 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。
- (4) 身体の移動能力に関すること。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

## 6 コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

## 4. 知的障害児教育におけるキャリア教育と自立活動

本節では知的障害児教育におけるキャリア教育と自立活動について整理していく。

東京都教育委員会（2008）は、知的障害教育におけるキャリア教育の考え方において「職業教育や進路指導を全て含んだ包括的で大きな概念であり、現在行っている教育活動全体を勤労観・職業観をはぐくむというキャリア教育の視点で見直していく必要がある」と述べている。前述したように、知的障害児教育においては各教科等を合わせた指導として「作業学習」が古くから行われていたため、キャリア教育への意識は当初から高かったと言えるだろう。

斎藤ら（2018）は、知的障害特別支援学校に在籍する高等部生徒の「基礎的・汎用的能力」の自己理解の実態について検討した。結果、キャリアプランニング能力においては既に獲得されていると考える生徒が多く、自己理解・自己管理能力については比較的未獲得と考

える生徒が多かった。また、中学校出身者が特別支援学校出身者よりもキャリアプランニング能力が高いと自己認識していることが明らかにした。この結果について斎藤ら(2018)は、特別支援学校のキャリア教育の実態として、就業体験や進路指導、職場見学が高等部において75%以上行われているとの報告もあることから(菊地, 2013)、職業教育や進路指導の充実、早期の現場実習等により、働くことへの意欲が促進したのではないかと考察している。知的障害特別支援学校における働くことへの意識付けは一定程度現在の特別支援学校での取り組みにより達成されていると推察される。

篠原・半澤(2019)は、職業学科における職業教育の現状と自立活動に対応した教育課程の仕組みを取り上げ、自立活動を核とした取り組みにキャリア教育の視点を意識した授業改善の内容・方法を検討した。道徳と自立活動を合わせた活動である「キャリアガイダンス」という授業において、自立活動の6区分の一つである「コミュニケーション」と関連付けて、「自己実現」へ向けての働く意義の理解、コミュニケーション能力の向上、ビジネスマナーを習得し、自己の生き方について考え、採用選考に向けて就職を「勝ち取る」ことを目指した授業実践を報告している。そして、職場で求められる「困ったときに相談できる能力」、「人間関係の構築」などについてを「コミュニケーション」や「人間関係の形成」において指導していくことの重要性を指摘している。このように自立活動の視点を取り入れたキャリア教育の実践は、必ずしも学校の中での教育課程として明記をしていなくとも、既に実施されているケースは少なくないと考えられる。

## 5. 肢体不自由児教育におけるキャリア教育と自立活動

本節では肢体不自由児教育におけるキャリア教育と自立活動について整理していく。

脇田・藤井・河合ら(2015)は、肢体不自由特別支援学校における「新しい」キャリア教育の理解や取り組みの現状と課題について検討を行った。そして、肢体不自由特別支援学校におけるキャリア教育の実態として「肢体不自由教育におけるキャリア教育プログラム」を作成している学校が多いこと、一方で作成している学校においても「障がいの重度重複化・多様化」「教育課程への位置づけ」「他学部との連携」「自立活動との関連」「教職員間の共通理解」「教職員の専門性」「社会資源・人的資源の確保」などについての課題があることが明らかになった。

斎藤ら(2020)は、肢体不自由特別支援学校に通う児童生徒に対するキャリア教育の指導内容と教員の意識について検討を行った。結果、重度重複課程が他の課程よりもキャリア教育に関する指導の実施が困難であることが明らかになった。特に「学力・認識力の育成」、「家庭生活力の育成」があまり実施されていないことが示された。重度重複課程は、重症心身障害児等重度の肢体不自由だけでなく重度の知的障害も併せ持っていることが多い。そのため、日々を生きる基礎的なスキルから身につける必要があり、学力や家庭生活力などを身につける前段階にある児童生徒も少なくないと考えられる。実際に本研究では、重度重複課程でのキャリア教育の在り方を課題として挙げている教員の例も紹介されており、個に応じた指導が求められる特別支援教育におけるキャリア教育そのものの在り方についても検討していく必要があるかもしれない。

中井・高野(2011)は、肢体不自由特別支援学校の教育課程における自立活動の実態を

把握するために、全国の特別支援学校に対する調査を行った。結果、肢体不自由児に対する自立活動の指導において活用している理論・技法について、理学療法一般、動作法、摂食機能訓練、作業療法一般、静的弛緩誘導法が主に活用されていることが示された。また区分については、「身体の動き」に関する目標設定が一番多く、次いで、「コミュニケーション」であった。肢体不自由だからこそ「身体の動き」の多さが伺える。

## 6. 病弱児教育におけるキャリア教育と自立活動

本節では病弱児教育におけるキャリア教育と自立活動について整理していく。

谷口（2014）は、病弱児の社会的自立のために“つきたい力”とは何かを明らかにし、病弱教育におけるキャリア発達支援実践への手掛かりを検討した。結果、子どもたちが病気や療養生活というネガティブな経験を抱えながら生活していく中で遭遇すると想定される様々な困難を乗り越えるための“個としての心の力”と、自分の人生をよりよいものにする“心のエネルギー”が社会的自立のために必要な力であることを明らかにした。

渡辺（2018）は、病弱児における自立活動の指導では、「健康の保持」「心理的な安定」が中心となり、「人間関係の形成」「身体の動き」が基本的な指導区分になると指摘している。特に「人間関係の形成」については、長期に入院している児童生徒にとっては、愛着形成や自我意識等の発達を支援するために必要な内容であると考えられている。

清水（2019）は、病弱特別支援学校で作成されたキャリア教育指導内容表における項目を、自立活動6区分27項目と比較することを通し、キャリア教育の視点から生徒の社会参加・自立に向けた指導内容と自立活動との関連を検討した。結果、「身体の動き」と「健康の保持」、「人間関係の形成」との関連が高いことが示された。また、「健康の保持」と「心理的な安定」では、自分の生活管理がきちんと行えるか、情緒を安定させながら就労生活を送ることができるかなど、仕事そのものではなく仕事以外で求められるスキルを身につけることを重要視されていることが示された。

## 7. まとめ

本稿では、特別支援教育におけるキャリア教育と自立活動について整理しつつ、知的障害と肢体不自由、病弱の三障害種を対象に、キャリア教育と自立活動の現状について先行研究の整理を行った。

知的障害特別支援学校において作成されているキャリアプランニング・マトリックスを用いた教育実践が現にいくつかあり、その有効性も指摘されていることから、様々な障害種に応じた、もしくは特別支援教育としてのキャリアプランニング・マトリックスの方向性を示すことは、インクルーシブ教育システム下にある特別支援教育を進めていく上で有効であると考えられる。一方で肢体不自由などは障害の程度の差も大きいことから、単に障害種ごとに作成することは難しいと考えられるため、特別支援教育におけるキャリア教育の位置づけを再度多角的に分析し、現行の学習指導要領でも指摘されている幼稚部段階からの系統的なキャリア教育の計画を作成することが望まれる。

自立活動については障害種ごとに重要視される区分が異なっていることが分かった。「個々の児童又は生徒」を対象としていることから、障害種により特に直面する課題が異

なってくるため、この点については不思議ではない。また、現行の学習指導要領での唯一の追加項目である「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。」について、ICFにおける環境因子や、障害の定義における社会的障壁などとの関連から、障害者本人のみならず周りとの相互作用についても把握する必要がある。変化し続ける社会における障害のある子どもの「自立と社会参加」に向けた「自立活動」の在り方を特別支援教育においては検討し続けていくことが重要である。

最後に、キャリア教育の視点を取り入れた自立活動の実践について、既にいくつかの学校において精力的に取り組まれていることが示された。自立活動の実施は個別の指導計画にも反映されるのが原則である。個別の指導計画のみならず個別の教育支援計画も含めて、キャリア教育に位置づけていくことが今後の特別支援教育において重要であると考えられる。

## 参考文献

- 菊地一文 (2013) 特別支援学校におけるキャリア教育の推進状況と課題：特別支援学校を対象とした  
悉皆調査の結果から (特集 障害のある児童生徒・青年へのキャリア発達支援 (1) キャリア発  
達支援における主要な課題とその解決に向けた具体的方策). 発達障害研究, 35, 269-278.
- 木村宣孝・菊地一文 (2011) 特別支援教育におけるキャリア教育の意義と知的障害のある児童生徒の  
「キャリアプランニング・マトリックス (試案)」作成の経緯. 国立特別支援教育総合研究所研究  
紀要, 38, 3-18.
- 北村博幸 (2015) 知的障害高等養護学校におけるキャリア教育の開発：北海道今金高等養護学校モデ  
ル. 北海道教育大学紀要 教育科学編, 66, 41-49.
- 国立特別支援教育総合研究所 (2011) 特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック, ジア  
ース教育新社.
- 文部科学省 (1999) 初等中等教育と高等教育との接続の改善について (答申).
- 文部科学省 (2011) 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について, 中央教育審議会  
答申.
- 文部科学省 (2017a) 小学校学習指導要領.
- 文部科学省 (2017b) 特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領.
- 文部科学省 (2022) 特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議報告.
- 中井滋・高野清 (2011) 特別支援学校 (肢体不自由) における自立活動の現状と課題 (1). 宮城教育  
大学紀要, 46, 173-183.
- 越智文香・越智彩帆・檜木暢子・菊田知則・加藤公史 (2018) キャリア教育に関する肢体不自由特別  
支援学校教員の意識調査—子どもの「夢や願い」と授業実践との関連—. Journal of Inclusive  
Education, 4, 74-86.
- 小田島利紀 (2013) キャリア発達の促しを意識した本校版「キャリアプランニング・マトリックス」  
の作成と学習活動への活用. 職業能力開発技術誌「技能と技術」, 24, 24-30.
- 斎藤遼太郎・池田吉史・奥住秀之・國分充 (2018) 知的障害特別支援学校高等部生徒におけるキャ  
リア教育の「基礎的・汎用的能力」に関する自己理解・評価. 発達障害研究, 40, 374-380.
- 斎藤遼太郎・斎須依恵・三橋翔太・田中亮・奥住秀之 (2020) 肢体不自由特別支援学校におけるキャ  
リア教育の指導内容と教員の意識. 茨城キリスト教大学紀要Ⅱ 社会・自然科学, 54, 131-141.
- 清水浩 (2019) 病弱特別支援学校におけるキャリア教育の視点を生かした自立活動の在り方に関する  
研究. 白鷗大学論集, 34, 33-46.
- 篠原浩司・半澤嘉博 (2019) 知的障害教育における自立活動の取り組み：高等部における軽度知的  
障害生徒への就労継続支援に関するキャリア教育の視点から. 東京家政大学研究紀要, 59, 109-  
119.
- 谷口明子 (2014) 病弱児の社会的自立のために“つけたい力”とは：キャリア発達支援の観点からの  
探索的研究. 東洋大学文学部紀要 教育学科編, 40, 111-120.

- 東京都教育委員会（2008）「知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の推進」平成20年度障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業（キャリア教育推進委員会）報告書。
- 脇田耕平・藤井梓・河合俊典・池永真義・富永光昭（2015）肢体不自由特別支援学校における「新しい」キャリア教育の実態と課題― 近畿2府4県の肢体不自由特別支援学校への質問紙調査を通して―。大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学, 64, 177-186.
- 渡辺実（2018）特別支援学校の教育課程における自立活動の意義と指導法：病弱教育における自立活動の指導内容と方法に着目して。花園大学社会福祉学部研究紀要, 26, 27-43.

A study of independent activities incorporating the perspective of career  
education in special needs education:  
focusing on intellectual disabilities, physical disabilities and illness

Ryotaro Saito

**Abstract**

Both independent activities and career education are curricula that are considered important in special needs schools and special needs education. The purpose of this paper is to review the status of career education and independent activities for the three disabilities of intellectual disabilities, physical disabilities, and illness, and to provide a discussion of methods of independent activities that incorporate a career education perspective. It was also indicated that a systematic career education plan should be developed from the kindergarten stage, that “independent activities” for “independence and social participation” of children with disabilities should be examined, and that independent activities incorporating a career education perspective are already being vigorously pursued in several schools.